

芦別高校生と小中学生との交流について

芦別高校では、小中学校の児童生徒に高校の魅力を知らせてもらうため、芦別高校生による小学校での外国語活動や体育などの「出前授業」を実施したほか、小学生が高校を訪問し、高校生との交流授業を行いました。芦別高校を訪れた小学生は、最初は緊張した様子も見られましたが、高校生とゲームを通じて交流を深めるなど、楽しみながら授業を受けていました。

また、中学生とは、毎年実施している中学3年生やその保護者を対象とした芦別高校体験入学説明会のほか、高校の教員が中学校に出向いて授業を行う取組などが予定されています。

さらに今年は、小中学校が毎年実施している「地域参観」の日に芦別高校も加わり、初めて小中学校と高校が統一した地域参観日が設けられました。当日は、保護者や学校運営協議会委員、地域の方々など多くの来校者が高校の授業の様子を見学しました。

小中学生と高校生との交流に加え、教員同士の交流も進んでおり、互いの授業を参観することで、それぞれの良さを自校の授業に生かす取組が始まっています。本市では、今後も、義務教育9年間に高校3年間を加えた12年間を見通した教育の在り方や目指す子ども像について情報共有を図り、小中学校と高校が連携を深めながら、交流事業の充実に向けて努めていきます。



高校生と上芦別小学生との交流

学校運営協議会でパネルディスカッション

12月3日(水)に、総合福祉センターにおいて「第2回学校運営協議会」を開催しました。学校運営協議会では、学校と保護者・地域の皆さんが知恵を出し力を合わせて、協働して子どもたちの成長を支えていく「地域とともにある学校づくり」を進めており、具体的な取組を定めた「星の降る里あしべつコミュニティ・スクールアクションプラン」を作成し、目指す子どもの姿の実現に向けた取組を推進しています。



パネルディスカッションの様子

目指す子どもの姿

地域～郷土に愛着をもつ子ども 知～進んで学習に取り組む子ども

徳～豊かな心をはぐくむ子ども 体～たくましく健やかな体をはぐくむ子ども

会議では、各学校部会の代表者がパネラーとなり、はじめに学校から地域・知・徳・体に関わる取組について成果や課題が発表されました。学校からは、日々の教育活動において「学校と地域との交流」、「朝食・起床の安定」など様々な成果や課題が示されました。

その中から、今回は、「子どもたちの生活リズムを整えるための支援」をテーマとしてパネルディスカッション形式で意見交換を行いました。参加者からは、「早寝・早起きを実現するためには外で遊んだり活動する機会を増やす」、「学校と地域のさらなる連携が必要」といった意見が出されました。これらの意見については、今後、アクションプランに具体的な取組として反映できるよう進めていきます。

保護者・地域の皆さま

教育だよりは、本市の学校教育の現状や課題、さまざまな施策や取組などを広く市民の皆さんに知っていただき、情報を共有するため年3回発行しています。

本市の学校教育の向上に関するご意見を「郵送」、「ファックス」、「電子メール」(様式自由)にてお寄せください。

【送付先】〒075-8711 芦別市北1条東1丁目3番地 芦別市教育委員会学務課総務係・学校教育係

【電話】0124-27-7586 【ファックス】0124-22-9696

【電子メール】gakumu@city.ashibetsu.hokkaido.jp

教育だより

発行:芦別市教育委員会学務課

☎0124-27-7586

目次	1面 芦別中学校3年生による「まちづくり提案」について
	2面 令和7年度全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙から
	3面 芦別市仲間づくり「子ども会議」を開催しました 小学校同士が木育学習で交流
	4面 芦別高校生と小中学生との交流について 学校運営協議会でパネルディスカッション

芦別中学校3年生による「まちづくり提案」について

10月14日(火)市議会議事堂において、芦別中学校の3年生から市に、まちづくりに関する提案が行われました。今回の取組は、ふるさと教育の一環として義務教育9年間を通じた地域学習の総まとめとして実施され、特に、中学校3年間では、百年記念館などの施設見学や宿泊学習、修学旅行で訪れた地域と芦別市との比較を行うなど、「芦別市をより良くしていくためには」というテーマのもと議論を重ねてきました。当日は、市長や市議会議長などが出席する中、3年A組、B組の生徒63名が、それぞれ5班に分かれて発表を行いました。クラスごとの主な発表と市長からの回答などは次のとおりです。



中学校3年生による発表の様子

3年A組(発表のテーマ:観光振興と情報発信の強化)

◆市のマスコットキャラクターの製作

・生徒＝市民の関心を高めるため、市内の学生からデザインを募集し、市民による投票で決定する機会を設ける。

・市長＝芦別のさらなるPRの効果が期待できるので、生徒の皆さんが考案したマスコットキャラクターを提案していただいた際は、活用について検討したい。

3年B組(発表のテーマ:地域経済の活性化と若者の定着)

◆特産品を活用したオリジナル菓子の開発・販売

・生徒＝中高生のアイデアをもとに芦別市の名産品などを活用したお菓子を開発し、道の駅など人通りの多い場所で土産品として販売する。

・市長＝生徒の皆さんからいただいたアイデアを、市内でお菓子の製造・販売を行っている民間の事業者の方に提供し、商品化の検討をしていただくための橋渡しは可能であるので、具体的な提案をいただきたい。

上記のほか、「SNSを活用した情報発信の強化」、「レンタル自転車(シェアサイクル)の導入」、「グルメグランプリの開催」、「基幹産業(農林業)の競争力強化と移住支援」などの提案がありました。

発表を終えた後、市議会議長からは「皆さんのような若い世代が、地域の可能性や課題に目を向け意見を持ち行動することがまちの活力につながります。これからも地域のことに関心を持ち続けてください」と感想が述べられたほか、今回の取組を通じて生徒からは、「自分の考えをまとめて伝えることや仲間と協力することの大切さ、重要性を学びました」、「ただ夢物語を創造するのではなく、実現性や予算など現実的に考えることの大切さを学びました」など多くの感想が寄せられました。



中学校3年生と市長等との集合写真

令和7年度全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙から

本年9月の教育だよりでは、学力調査の結果概要をお伝えしましたが、今回は、その調査の中にある質問紙調査から、近年、学校教育の分野で大切にされている「ウェルビーイング（心身ともに、そして社会的にも満たされ、幸せを感じられる状態）」に関する項目について、本市の児童生徒の結果をご紹介します。

◆ウェルビーイングの向上に関する項目

挑戦心・自己有用感・幸福感等の状況について、児童生徒質問紙調査の結果

※当てはまる・どちらかと言えば当てはまるの合計

質問項目	校種	芦別市(%)	全国比
①先生は、あなたのよいところを認めてくれていると回答した児童生徒の割合	小	93.7	+1.5
	中	94.8	+2.6
②将来の夢や目標を持っていると回答した児童生徒の割合	小	77.1	-6.0
	中	57.9	-9.6
③人が困っているときは、進んで助けると回答した児童生徒の割合	小	89.6	-4.1
	中	84.2	-6.7
④自分と違う意見について考えるのは楽しいと回答した児童生徒の割合	小	77.1	-1.0
	中	79.0	-0.2
⑤友達関係に満足していると回答した児童生徒の割合	小	87.5	-4.2
	中	87.8	-3.6
⑥学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると回答した児童生徒の割合	小	89.6	+6.3
	中	89.4	+5.1

分析

小中学校共通で全国平均を上回っている項目は、①「先生は、あなたのよいところを認めてくれる」⑥「学級生活をより良くするため学級会で話し合う」であり、教師の肯定的な関わりや学級経営の安定が子どもたちの安心感につながっていることがうかがえます。

その一方で小中学校とも全国平均を下回っている項目が②「将来の夢や目標を持っている」③「人が困っているときは進んで助ける」④「自分と違う意見について考えるのは楽しい」⑤「友人関係に満足している」であり、自己の将来像の形成や他者との関わりの中で考えを深める力に課題が見られます。特に、②「将来の夢や目標を持っている」は全国との差が大きく、学習内容が自分の将来や社会とどのようにつながるのかを実感しにくい状況が考えられます。

芦別市の取組

上記の課題を踏まえ、芦別市では「ふるさと教育・キャリア教育」を柱とした取組を推進しています。小学校においては、各教科や総合的な学習の時間を中心に、地域の自然、農業・林業、施設、人材、企業や炭鉄港など、身近な教育資源を有効に活用した体験的な学習を行っています。これにより、地域への理解と愛着を深めるとともに、自分の興味・関心に気付く機会を大切にしています。

中学校においては、小学校での学びを土台とし、職場体験学習や話し合い活動などを通して、社会や働くことへの理解を深めるとともに、自分自身の将来について主体的に考える学習を進めています。

小中学校におけるこれらの取組を通して、子どもたちが自分の良さや可能性を自覚し、将来の夢や目標を描くことができるよう、9年間を見通した系統的・継続的な「ふるさと教育・キャリア教育」の充実を図っていきます。

芦別市仲間づくり「子ども会議」を開催しました

12月9日（火）に、総合福祉センターにおいて「いじめ」根絶のための取組の一環として、「ネットによるいじめを防ぐためには」をテーマに、芦別市仲間づくり「子ども会議」を開催しました。市内小中学生と芦別高校・星槎高校の児童会・生徒会の代表計14名が参加し、3グループに分かれて「悪意のあるメールによるトラブル」、「なりすまし投稿による誹謗（ひぼう）中傷」、「動画サイトを用いたいじめ」の3つのテーマをもとに、児童生徒自身が被害者や加害者、その周りの人たちの立場に立って「何が問題だったのか」、「トラブルを防ぐためには」を協議の柱として話し合い、考え方を共有しました。

参加した児童生徒は、積極的に意見を出し合い、協力しながら解決策を見出すなど大変有意義な会議となりました。

ぜひご家庭においても、ネット（SNS）上にどんな危険性やトラブルがあるかなどについて話し合う機会を持っていただくなど、ネットトラブルの未然防止に向けて、ご理解とご協力をお願いします。



「子ども会議」の様子

～いじめ根絶に向けた取組～

本市では、北海道教育委員会からの「いじめ把握のためのアンケート調査」「いじめ問題の対応状況の調査」のほか、芦別市独自の「小中学生のスマホなどに関するアンケート調査」を実施し、いじめの実態把握と早期解消、未然防止に向けた指導に生かしています。また、各学校においても児童会や生徒会活動の中で「いじめを許さない学校づくり」に向けて、次のような取組が行われています。

○芦別小学校

「芦小スマイルプロジェクト」～朝のあいさつ運動時に「ハッピーみくじ」を引き、おみくじには「友達のがんばりに拍手を」、「親切にはありがとうと伝えよう」など、みんなが笑顔になれるようなミッションが書かれており、その内容を実現する。

○上芦別小学校

「いじめをなくそう週間」～「この学校をみんなが楽しく通える場所にする」ために、児童会の人たちが、休み時間に呼びかけや見回りを行う。

○芦別中学校

「STOPいじめ」～昨年度は「感じ方の違い」をテーマに全校集会で学年の枠を超えて様々な「感じ方」について討議し、スローガン「尊重しよう 十人十色の感じ方」を決定しました。

※芦別市のホームページいじめ対策に関するページに掲載していますので、ご覧ください。
(<https://www.city.ashibetsu.hokkaido.jp/docs/4803.html>)

小学校同士が木育学習で交流

10月31日（金）に、黄金町にある市有林において、芦別小学校と上芦別小学校の6年生が合同で木育学習として植樹活動を行いました。元気森森まつり実行委員会や芦別市B&G海洋センターなどの協力により、クリーンラーチ（※マツの新品種）を植樹しました。両校の児童が4グループに分かれてそれぞれ自己紹介をしたあと、スコップで穴を掘り、苗木を植えるなど、皆で声を掛け合いながら協力して作業を進める姿が見られました。本年2月にも、両小学校の5年生が合同で市内製材工場の見学等を予定しており、今後も引き続き、児童の交流を深めながら本市の基幹産業である木育についての学習を進めていきます。



木育学習での様子